



あのときの常呂・写真館

VOL 134

(1982年)

昭和57年10月14日

学校給食優良校に常呂小学校が文部大臣表彰

▶『常呂小学校百周年記念誌』に、標題の表彰を伝える「常呂小PTAだより」の一部分が載っています。見出し・リードは〈学校給食に郷土の味…文部大臣表彰に輝く常呂小〉。本文を抜粋して紹介します。「57年度の学校給食優良校として常呂小学校が文部大臣表彰に輝きました。この表彰はユニークで魅力ある給食を行っている学校を表彰…全国から82校（道内2校）が選ばれ…表彰式は10月14日…。…給食メニューには父母のアイデアを採用し、郷土色を盛り込んだ週2回の米飯食は子どもたちの評判も良く、父母の愛情が伝わる楽しさを味わっているようです。…主なメニューは、ホタテご飯、サケの氷頭こんぶ巻き、カニのてっぽう汁、ホッケやチカのフライ…。11月16日、文部大臣表彰…受賞祝賀会を開いたところ…関係者110人が集まり、全員で受賞を祝い合いました」



＊常呂小学校のランチルームで行われた祝賀会



●昭和55年7月号の「広報とことろ」の〈役場と仕事／給食センター〉には、常呂小学校新校舎と給食センターが完成する11月以降の給食では、〈先割れスプーンを廃止し、食事内容に合ったはし・スプーン・フォークを使用し、アルミ容器からできるだけ家庭で使用しているものに近い食器に変更〉、〈四季を通して郷土給食を盛り込み〉、学校給食の変化を伝えています。こうした取り組みが、表彰につながったと思われます。

●昭和59年4月28日発行の「学校給食だより」の〈給食のあらまし〉には、次の記載があります。

＊小学校1週5回で年200日、中学校1週6回で年240日を基準として、1日に約800人分の給食を配送車1台で、小学校6校（日吉・福山・富丘・川沿・錦水・常呂）、中学校1校に供給

＊1週の中で、パン2回（中学校3階）、めん類1回、米飯2回の給食形式